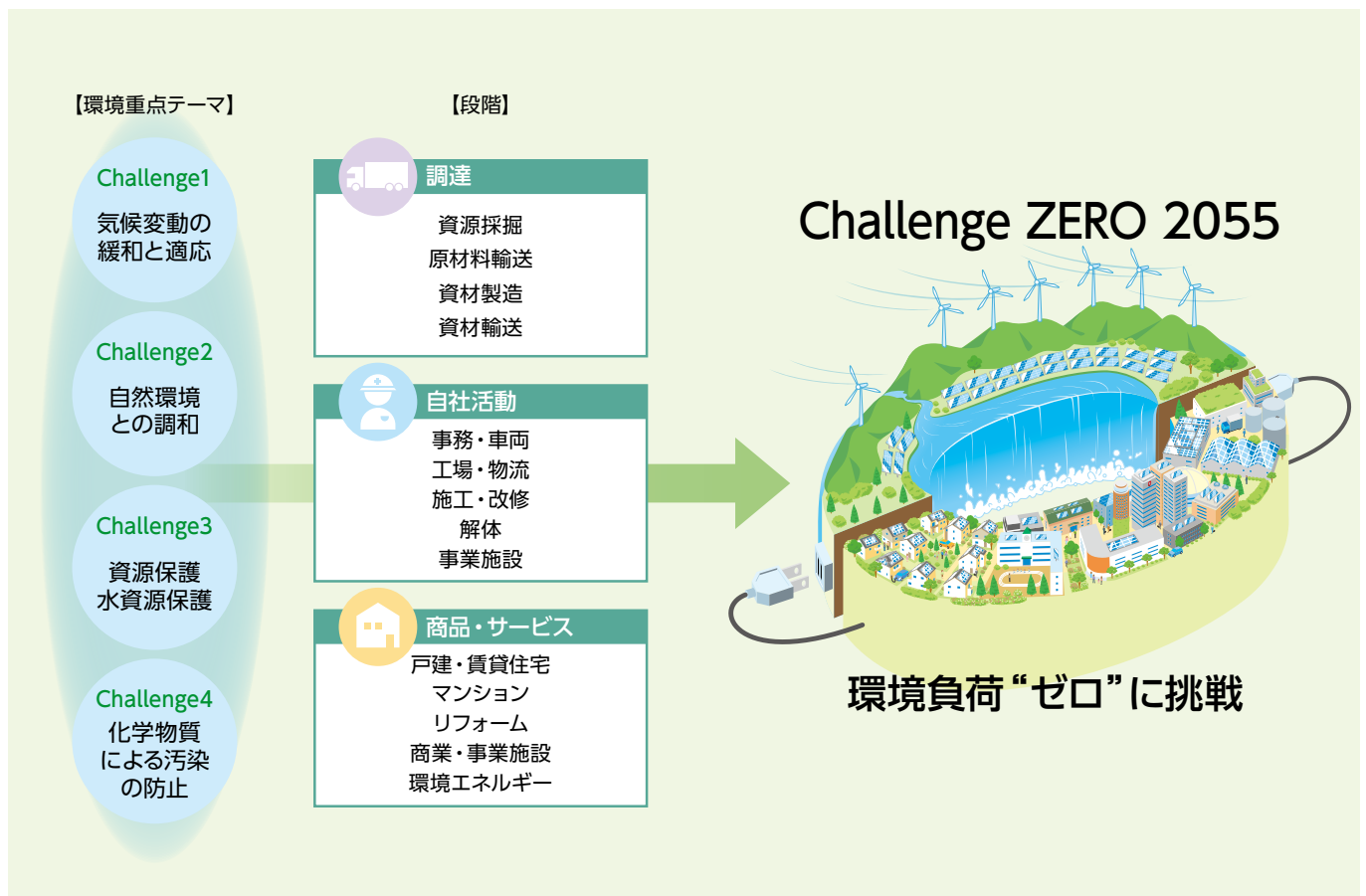


## 環境長期ビジョン

大和ハウスグループは、人・街・暮らしの価値共創グループとして持続可能な社会の実現を目指し、グループ、グローバル、サプライチェーンを通じて環境負荷“ゼロ”に挑戦します。

当社グループでは、大和ハウス工業の創業100周年にあたる2055年を見据えて、2016年度に環境長期ビジョン“Challenge ZERO 2055”を策定。グループ経営ビジョンである「人・街・暮らしの価値共創グループ」として持続可能な(持続可能な)社会の実現を目指し、4つの環境重点テーマ(気候変動の緩和と適応、自然環境との調和、資源保護・水資源保護、化学物質による汚染の防止)に関して3つの段階(調達、自社活動、商品・サービス)を通じ、環境負荷“ゼロ”に挑戦します。



## 環境長期ビジョン

気候変動の緩和と適応  
(地球温暖化防止・エネルギー)

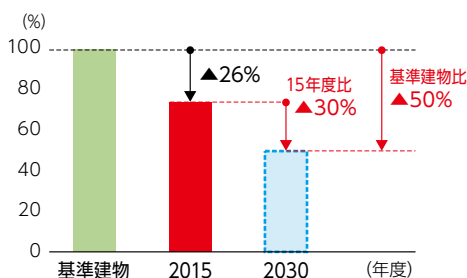
**Challenge1** 脱炭素社会の実現に向け、徹底した省エネ対策の推進と再生可能エネルギーの活用によりライフサイクルにおける温室効果ガス排出量ゼロを目指します。

### Action1



2025年までに戸建住宅、2030年までに建築物において、平均的な新築建築物のZEH・ZEB化を図り、居住・使用段階の温室効果ガス排出量(面積あたり)を2030年までに2015年度比30%削減することを目指します。併せて、再生可能エネルギーによる発電や低炭素電力の供給を推進し、エネルギーゼロの街づくりを推進します。

■ 住宅・建築物の使用時温室効果ガス排出量(m<sup>2</sup>あたり)



### Action2

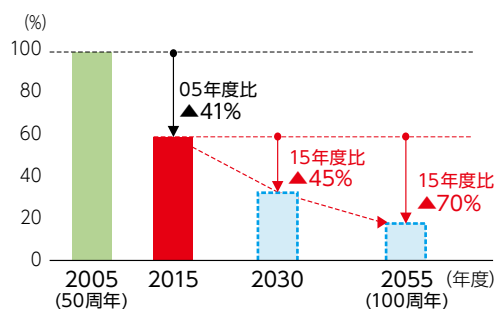


全施設・全事業プロセスにおける温室効果ガス排出量(売上高あたり)を、2015年度比で2030年に45%削減、2055年には70%削減を目指します。

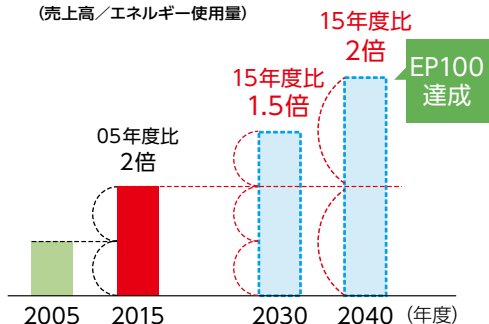
- 既存施設のさらなる省エネ対策と新築施設のZEB化により、全グループのエネルギー効率(使用エネルギーあたりの売上高)を、2015年度比で2030年に1.5倍、2040年には2倍を目指します。**[EP100]**
- 再生可能エネルギーの拡大に取り組み、全グループの電力使用量に対する再生可能エネルギー発電(売電含む)の割合を、2030年に100%まで向上し、2040年には電力使用量の100%を再生可能エネルギーでまかなうことを目指します。**[RE100]**

(EP100 : Energy Productivity, RE100 : Renewable Energy)

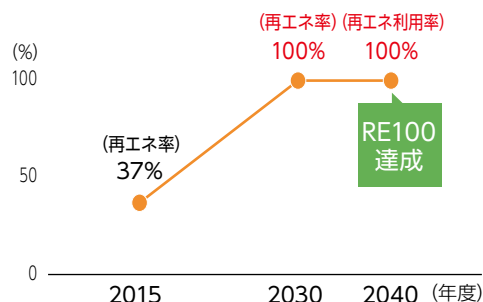
■ 売上高あたり温室効果ガス排出量



■ エネルギー効率  
(売上高/エネルギー使用量)



■ 再生可能エネルギー率  
(再生可能発電量/電力使用量)



### Action3



サプライチェーンの脱炭素化を目指し、主要サプライヤーの90%と、2025年までにパリ協定を考慮した温室効果ガスの削減目標を共有し、共に取り組みを進めます。



調達



自社活動



商品・サービス

## 自然環境との調和 (生物多様性保全)

### Challenge2

自然資本の保全・向上に向け、材料調達による**森林破壊ゼロ**の実現と、**緑あふれる街づくりによる緑のノー・ネット・ロス**を目指します。

#### Action1



開発に伴う自然資本の損失を最小限に抑えるとともに、お客さまと協働して、住宅・建築・街づくりにおける緑の量と質の向上を図り、緑のノー・ネット・ロス<sup>\*</sup>を目指します。

<sup>\*</sup>ノー・ネット・ロス：開発する地域で失われる生物多様性を別の場所で補償(オフセット)することで影響がないものとする考え方

#### Action2



2030年までに、住宅・建築物における建材において木材調達に伴う森林破壊ゼロ、2055年には全事業において材料調達に伴う森林破壊ゼロを目指します。

## 資源保護 (長寿命化・廃棄物削減・ 水資源保護)

### Challenge3

資源循環型社会の実現に向け、住宅・建築物の**長寿命化と廃棄物のゼロエミッション**、さらに健全な水循環を通じて、**資源の持続可能な利用**を目指します。

#### Action1



新築住宅・建築物の長寿命化や可変性の向上を図ります。また、良質で安心な住宅・建築物の資産価値が長期に渡り維持されるよう、既存建物の最適なリノベーション、リフォーム等を推進するとともに、これらが適正に評価され、流通する市場の形成を目指します。

#### Action2



2030年までに、住宅・建築物のライフサイクルにおける廃棄物のゼロエミッション(循環利用)を実現し、2055年にはその他全事業において廃棄物のゼロエミッション(循環利用)を目指します。

#### Action3



水リスクの最小化(ゼロ)に向け、ライフサイクルにおける水使用量の削減と排水管理を徹底します。

## 化学物質による 汚染の防止

### Challenge4

住宅・建築物のライフサイクルを通じた化学物質の適正管理に取り組み、**人や生態系に著しい悪影響を及ぼすリスクの最小化(ゼロ)**を図ります。

#### Action1



住宅・建築物のライフサイクルにおける化学物質リスクの把握に努め、予防的観点から有害化学物質の代替(廃止)、削減、適正管理を進め、リスクの最小化(ゼロ)に取り組み続けます。

#### Action2



自社保有地はもとより、土地取引から建設プロセスまで、調査・対策を含む土壌汚染リスクの厳格な管理により、リスクの最小化(ゼロ)に取り組み続けます。